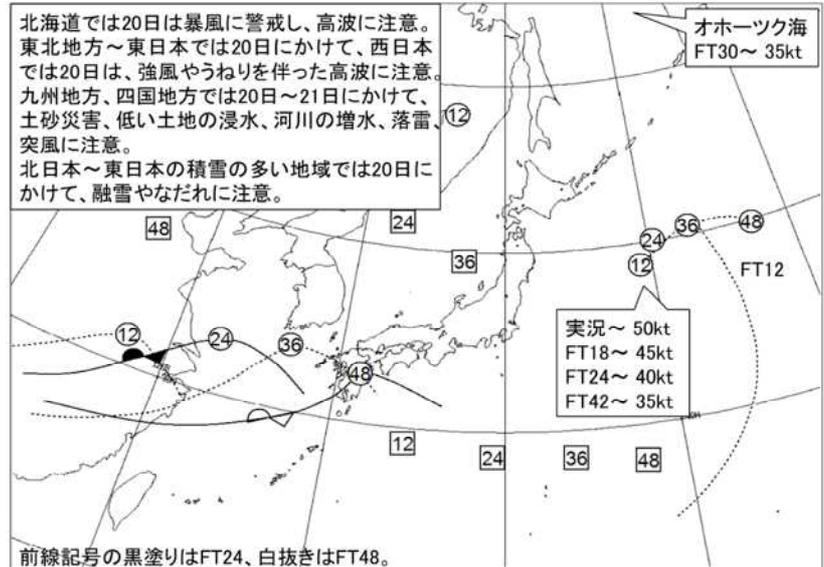


1. 実況上の着目点

- ① 日本の東に 500hPa5640m 付近に -18°C 以下の寒気を伴った寒冷渦があって東進。この寒冷渦に対応して日本の東に前線を伴った低気圧があって、発達しながら北東進。東日本では低気圧や前線の影響で気圧の傾きが大きくなっており、関東地方では強い風が吹いている所がある。
- ② 西日本～南西諸島は東シナ海に中心を持つ高気圧に覆われ、おおむね晴れている。
- ③ 西日本～東日本にかけて黄砂を観測し、視程が 10km 未満の地点がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①の寒冷渦は20日にかけて日本の東を北東に進む。1項①の低気圧は急速に発達しながら、19日は日本の東を北東に進み、20日は寒冷渦直下となって日本の東で動きが遅くなる。低気圧や前線の影響で気圧の傾きが大きくなるため、北海道では風が非常に強く吹く所があり、海上ではしける所がある。また、東北地方～東日本では風が強く吹いて、波が高い。北海道では暴風に警戒し、高波に注意。東北地方～東日本では20日にかけて、強風やうねりを伴った高波に注意。
- ② 500hPa5700m 付近のトラフが19日は華北を東進する。このトラフに対応して19日朝に華中で低気圧が発生。低気圧は前線を伴いながら東南東進し、21日朝には九州付近まで進む。また、500hPa5760m 付近の流れに対応して、19日夜までに華中で前線(850hPa 15°C 付近)が発生し20日には九州地方にのび出す。この前線や低気圧に向かって、下層暖湿気(850hPa $\theta e336\text{K}$ 以上)が流入し、大気の状態が不安定となる。九州地方や四国地方では20日から21日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風に注意。また、低気圧や前線の周辺では気圧の傾きが大きくなるため、西日本では20日は、強風や高波に注意。
- ③ 1項②の高気圧は、20日にかけて日本の南に中心を移し、東日本～南西諸島を覆う。850hPaの気温が平年に比べ 5°C 前後高くなる。北日本～東日本の積雪の多い地域では、20日にかけて、融雪やなだれに注意。
- ④ 北日本～西日本では引き続き19日は、黄砂が飛来する可能性がある。視程が5km未満になった場合には交通への影響が発生するおそれがあるので注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(18時から24時間):高い所(100mm以上)はない。②波浪(明日まで):北海道4、東北・関東・伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。